



尊い一歩

校長 柳瀬 泰

今年の桜の開花まではあと 20 日ほど。そして、東京オリンピック・パラリンピックまであと 500 日ほどとなりました。

あるパラリンピック選手の言葉です。「僕は自分を障害者だと思っていない。例えば、高齢者で体が動かなくなる。視力が落ちる。皆、それを障害でなく老いるという自分の一部だと考える、それに似ている。皆、何らかの障害を抱えているといってもいい。大きな違いはないと思います」このメッセージからは、障害というものは「自分にはできない」と諦めてしまう心の壁、閉ざしてしまう心の扉のことだということに気付かされます。

新聞で、このような五行歌を見付けました。

百メートル

九秒台

一歩

三十分

どちらが凄い

ジャマイカのウサイン・ボルト選手は 100 メートルの世界最速の人類です。9 秒 58 という記録は人類が 100 年以上もかけて縮めてきた人類の挑戦の記録でもあります。

2 年前に他界した私の義父は高齢の上、ALS（筋萎縮性側索硬化症）という病気でした。ALS は、脳から筋肉に命令が伝わらなくなり、歩いたり、物を持ち上げたり、食べ物を飲み込んだり、呼吸が困難になったりする難病です。そんな義父に付き添い家から 100 メートルほど先にあるお店に行きました。歩行補助器を使い、一歩一歩進み、約 15 分かけてお店へ辿り着きました。帰りも同様の歩調で往復 30 分ほどかけて家に戻ってきました。

陸上トラックで速く走ることは凄いことですが、街中には遅くても尊い一歩を刻む人がいるのだな、そうしみじみと感じた場面でした。89 歳で難病にかかりながらも、最後まで自分の足で歩こうとした義父は、私にとっては今もオリンピック・パラリンピック選手と同等の英雄です。

今年の学校便りもこれが最終号となります。1 年間、ご愛読いただきありがとうございます。今後も高山小が「今日が楽しく、明日が待ち遠しい学校」となるようご支援下さい。

3月の行事予定

1 日 (金) 保護者会 (5、6 年)

4 日 (月) 全校朝会 保護者会 (1、2 年)

5 日 (火) 保護者会 (3、4 年)

7 日 (木) 三中生訪問

8 日 (金) 保護者会 (わか竹)

11 日 (月) 避難訓練

18 日 (月) 全校朝会 給食終了 (1~5 年)

20 日 (水) 特別給食 (6 年)

22 日 (金) 修了式

25 日 (月) 卒業式

卒業に向けて

卒業式を目前にして

6年学年主任 門田 剛和

6年間通った高山小学校に登校する日数も、あと17日となりました。先日の6年生を送る会では、1～5年生から温かい言葉をたくさんもらい、高山小学校で過ごした日々を思いを巡らせていました。そして、3月25日に卒業式を迎えます。

6年生はこの1年、高山小を引っ張るリーダーとして、また学校を支える裏方として活躍することがたくさんありました。その最後を締めくくる卒業式を立派な姿でやり遂げてほしいと思っています。今週からは本格的に卒業式練習がスタートします。証書授与の仕方や門出の言葉、合唱だけでなく、座り方やお辞儀の仕方、歩き方など細かい動きまで意識を向け、後ろに座る5年生や保護者の方々に背中成長を見せられるよう指導して参ります。

また、卒業に向けて、竹ぼうきを使って清掃活動をしたり、感謝の気持ちを込めて学校に役立つものを作ったりする活動に取り組んでいます。これらの活動を通して、自分達がたくさんの人に支えられてきたことに改めて気づき、お世話になった方々への感謝の気持ちをしっかりと、卒業までの日々を大切に過ごしていくことを願っています。卒業式当日、130名全員が胸を張って高山小を巣立っていけるよう、担任一同最後まで力を尽くして参ります。

3月のめあて

生活 1年間のまとめと反省をしよう

安全 安全な生活についてのまとめをしよう

保健 1年間の健康生活について、ふりかえってみよう

6年生を送る会

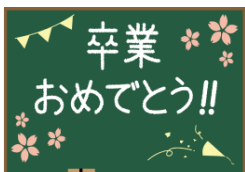
当たり前「ありがとう」

特活部 柳下 将

6年生は、この一年間委員会活動やクラブ活動、行事、たてわり活動など様々な場面で高山小学校を引っ張ってきました。

それは、最高学年だから当たり前のように思われますが、これは決して「当たり前」ではありません。その「当たり前」に「ありがとう」を伝えるのが「6年生を送る会」です。

1年生から5年生まで、「6年生を送る会」に向けた準備をしてきました。それぞれの学年が趣向を凝らした楽しい出し物、合唱などを披露しました。



全校児童、それぞれが「ありがとう」を伝え合い、温かい空間を作り出すことができ、体育館に笑顔があふれる会になりました。

6年生進級に向けて

6年生から受け継ぐバトン

5学年主任 萩嶺 敬治

今年度も残すところ1か月となりました。5年生は、今年度の取り組みのまとめをするとともに、4月からは最上級生として高山小を引っ張っていけるよう、準備をしているところです。

2月12日のたてわり集会では、5年生が遊びの企画、準備をし、当日の進行も行いました。事前に6年生から助言をもらいましたが、初めての取り組みで、準備の段階から難しさを感じた部分もありました。終わった後に6年生から励ましの言葉をもらい、あらためて6年生の偉大さ、頼もしさを実感したようです。

4月からは、たてわり集会だけでなく、委員会、クラブ、朝会でのあいさつ、その他の様々な場面で最上級生として責任をもって取り組むべきことがたくさんあります。今年度の残りの1か月間が、最上級生へのステップとして充実した毎日となるよう、取り組んでいきます。

卒業式には、在校生代表として参加します。6年生に感謝の気持ちを伝えられるような、また、次のリーダーとして安心してもらえるような、立派な姿を見せてくれることを期待しています。



小中一貫・三位一体で取り組む 主体的・対話的で深い学び

継続的な取り組みで、主体的な学習へ

4年担任 森山 遥加

「泣き出してしまうくらい嫌いだった発表が、待ち遠しいくらい、好きになりました。」3学期の始業式での4年生の言葉です。4年生は、この一年間、様々な教科の学習で発表する機会を沢山設けてきました。

例えば、社会では、都道府県の特徴を調べ、県の魅力が伝わるように友達に紹介し、国語では、「のはらうた」のもつユーモアが溢れた生き物の温かい世界を伝えるためにグループで、試行錯誤しながら群読しました。聞き手が質問する対話型の発表や、ポスターセッション形式、グループ発表など、様々な形で行ってきました。

年間を通して、どの教科でも横断的に「発表」の機会を設けてきたことで、初めは「発表しなきゃいけない」だった思いが、「聞いている人に楽しんでもらいたい」になり、「人に伝えるためにはどうしたらいいか」という主体的な姿勢に変化しています。今では、「先生、この学習は、最後に発表はしないの?」という言葉が出るほどです。児童の「やりたい」を引き出す学習のために

今後も教科を横断した継続的な取り組みを行っていきます。

